琉球大学学術リポジトリ

環境正義思想に見る先住民族の世界：アリュート研究を中心に

メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学
	公開日: 2016-05-13
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 神沼, 尚子, Kaminuma, Shoko
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/30799

様式第７号

学　位　論　文　要　旨

学位論文題目

環境正義思想に見る先住民族の世界
―アリュート研究を中心に―

琉球大学大学院
人文社会科学研究科

比較地域文化専攻

学生番号　０７８０９３G

氏　　名　　神沼　尚子

学位論文要旨（横書き楷書、ワープロ可、字数８００字程度）

本論文はアラスカ先住民であるアリュート人の世界や自然観、また戦時中に強制移住を強いられた経緯や戦後補償をアメリカ社会における環境正義思想の視点で多角的に分析することを試みたものである。

序章では研究目的・意義、問題の所在および論文の構成を提示した。

第１章では、①アメリカ環境史の可能性を述べ、さらにアメリカ環境史には先住民の環境の歴史が記述されていないことを指摘し、先住民の視点を取り入れたアメリカ環境史を再構築することを試みた。②「環境正義」及び「環境人種差別」が生まれた背景を概観した。また従来の定義に加えて、筆者の定義を提示した。③環境人種差別として理解される強制収容がアメリカ合衆国の歴史において存在したのかどうか、またその強制収容の性質を論じた。④先住民族や少数民族を強制収容するときに連邦政府が用いてきた正当な理由について論じた。

第２章では、①アリュート人の世界や自然観を多角的な視点で論じた。②強制移住前の迫害の歴史を地理的な要因に探り、また侵略された歴史を地名から紐解くことを試みた。③強制移住や収容を社会的政治的背景の分析や検証に焦点を当て、*When the Wind Was a River* のテクスト分析から強制移住を決定する政策過程、収容先の生活環境、帰還を明らかにした。④*Aleutian Sparrow* のテクスト分析から収容生活が環境正義の概念とは逸脱した経験であることを確認した。

第３章では、アリュート人のバイオリージョンを侵された環境人種差別である強制移住に対する補償運動の意義を環境正義の視点で分析し、また公民権運動との関係を論じた。またさらにバイオリージョナリズムから先住民族へ対する補償を分析した。